



☆Society5.0（ソサエティー5.0）

5月1日（月）に全校朝礼を行いました。今年度第1回目の全校朝礼ということで、何を話そうかなと悩みましたが Society5.0 について話をしてみました。これは、平成28年に閣議決定された第五期科学技術基本計画の中で提唱されたもので、今後の教育や学びに大きく関わってくる大切なものです。低学年には難しいかなとも思ったのですが、できるだけ分かりやすくということで、思い切って話してみました。

Society5.0とは、狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、そして現代の情報社会（Society4.0）の次に訪れる新しい社会のことです。どんな社会かと言うと、「サイバー空間とフィジカル（現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」なのだそうです。こんなことは、難しすぎるので子ども達には言いませんが、次の様な説明をしました。

現代の情報社会では、人がナビで検索をして運転をしたり、人が情報を分析・提案したり、人の操作によりロボットが生産をしたりします。これが Society5.0 では、自動走行車で自動走行したり、情報を分析しなくてもAIが人に提案をしてくれたり、工場で自動的にロボットが生産をしてくれたりするようになります。現実社会のありとあらゆるものがセンサーやチップによってインターネットとつながり、その膨大な情報をAIが処理して、分かりやすく人間に提供してくれるようになります。そこに自動運転や機械による生産などといった高度な機械技術が融合して、現実社会における問題点をより効率よく解決しようとする手段が進歩します。そのような社会がもうすぐそばまで来ているということです。このように言うと、AIやロボットに支配される社会のように感じるかもしれませんが、そうではありません。誰もが快適に便利に生活できる、一人一人の人間が中心となる社会、それが、Society5.0です。

では、このような社会に向けて教育は、学びはどのように変わるのでしょうか。端的に言うと、「一人一人の能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現」が求められるようになります。読解力など基礎的な学力を確実に習得させながら、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場が変わっていきます。学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習が取り入れられていきます。教室での学習が、外部の大学や研究機関、企業、NPO等を活用した多様な学習へと変わっていきます。

このような変化に対応するために、学校も変わっていかねばなりません。これまでではこうしていたからといった前例主義的な意識をまずは捨てなければなりません。教師が教えるという発想から、子どもの興味や関心を中心に置いた学びを提供する努力も必要です。Society5.0に向けてデジタル革新を担える能力を開発していくことは必須といえるでしょう。学校が変わっていくことは決して簡単なことではありませんが、未来の変化に向けての努力は、今すぐに始めていかねばならないと考えるところです。

☆1年生を迎える会

6年生がリードをして、1年生を迎える会を行いました。1年生へのインタビューや全校での遊び、プレゼント渡し、縦割り班での自己紹介など盛りだくさんの内容でした。コロナ禍の中、自粛されていた「じゃんけん列車」も行われ、子どもたちも久々のふれあいをとても楽しんでいました。

毎年恒例の行事ですが、この1年生を迎える会を経て、全校のまとまりがより一層増すように感じています。6年生のリーダーとしての頑張りもすばらしかったです。

